

開会の辞
ーゼロエミッションの本質と展開ー

ゼロエミッションシンポジウム2003
「ゼロエミッション社会を目指した
新しい行動モデル」

2003年10月20日

国際連合大学ゼロエミッションフォーラム 会長

山路 敬三

ゼロエミッションの本質

< 生態系とのアナロジーによる
経済・社会効率のよい循環型社会の実現 >

生態系とのアナロジーによる 循環型社会の実現(1)

<u>これまでの 産業社会</u>	<u>生態系</u>	<u>ゼロエミッション 産業社会</u>
生産	繁殖/成長	生産
見込生産 見込販売	生息地の自然環境 に合った生産	オンデマンド生産
集中生産 大量輸送	生活圏の中での 生産・調達	地産・地消
枯渇性資源・ エネルギーの大量 使用	非枯渇性資源・ エネルギーの利用	非枯渇性経済

生態系とのアナロジーによる 循環型社会の実現(2)

<u>これまでの 産業社会</u>	<u>生態系</u>	<u>ゼロエミッション 産業社会</u>
販売/使用	生活	販売/使用
購入(所有)し 使用する	所有せず、機能を 利用	機能販売型
サービス時以外は 無管理状態	自然管理状態	自然に集中管理
枯渇性エネルギー の大量使用	非枯渇性資源・ エネルギーの利用	非枯渇性経済

生態系とのアナロジーによる 循環型社会の実現(3)

<u>これまでの 産業社会</u> 廃棄/リサイクル	<u>生態系</u> 解体、分解	<u>ゼロエミッション 産業社会</u> 廃棄/リサイクル
分別回収 集中処理	生息地の自然環境 において解体、分解	地廃・地処
一部循環型	完全循環型	産業クラスタ リング
枯渇性エネルギー の大量使用	非枯渇性 エネルギーの利用	非枯渇性経済